

臨床研究の情報公開

研究課題名	腭頭部癌における surgical margin の意義
研究機関	弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座
研究内容	<p>腭癌手術における切除断端癌遺残 (R1) は、切除標本のどの断端においても顕微鏡的に腫瘍が露出していることにより定義されます。一方、EU 諸国では 1mm 以内の顕微鏡的進展例は R1 として分類すべきという、所謂 1mm rule を推奨していますが、その臨床病理学的意義は未だ明らかになっていません。そこで、過去の症例を調べ、1mm rule による断端評価の予後因子としての重要性を検証します。</p>
実施期間	倫理委員会承認日から平成 29 年 3 月 31 日まで
対象者	2006 年 10 月から 2014 年 11 月までの期間で、弘前大学医学部附属病院において腭頭部癌に対して R0 切除術が施行された 64 人が対象です。
実施方法	<p>介入を行わない既存情報を使用する研究です。既存情報は診療録を利用し、病歴、年齢、性別、身長、体重などの臨床所見、初回手術時の術式、臨床病理所見などの手術関連情報、合併症や術後経過などの術後情報を使用します。病理標本から腭切離断端、腭前方剥離面および後方剥離断端から腫瘍までの距離を再検討し、断端から 1mm 以内に腫瘍細胞が存在した場合に断端陽性と判定し、断端陽性部位を含め臨床病理学的因子と予後の関係について解析を施行します。</p> <p>患者個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。</p>
参加撤回の自由	患者さんが解析対象となることを望まない場合、研究対象から除外しますので担当医師や下記に御連絡ください。その場合、当科での診療において何ら不利益を受けません。
問い合わせ先	<p>研究計画書や研究の方法に関する資料などの閲覧希望、研究についての疑問などの問い合わせは下記にご連絡ください。</p> <p>研究実施責任者：齋藤 傑（さいとう たけし） あて先：〒036-8562 弘前市在府町 5 弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座 電 話：0172-39-5079（講座直通） F A X：0172-39-5080（講座直通） メール：tt83fe@bma.biglobe.ne.jp</p>